

C-23 顔面および頸の形態的因子と衿型との関係についての研究(第4報)
名古屋女大家政・生研 拓原さみえ O天野美保 加藤よし巳

目的 女子の顔面および頸の形態的因子と被服構成における衿型との関係を明らかにするために、顔面および頸の長径、幅径の計測値を統計的に処理し、標準偏差を用いて類型化を試み先に報告したが、今回は官能検査法による分類を試み、両者を比較し、いづれが分類法として適当であるかを検討した。また顔面と頸を分類別に組み合わせ、それらと基本的な衿ぐり各種との関係について一考察を試みに。

方法 短期大学生183名を被験者として $\frac{1}{2}$ 大の顔面写真をトレーニングペーパーに転写し、本学被服教師8名が顔の形態的 분류のための官能検査を3~5日おきに各5回行なった。その結果と既報の分類法とを比較するために \bar{U} 検定を行なった。また顔と頸の組み合わせによる分類を試みるために顔と頸の長径と幅径の各比を求め両者間の相関関係を検討した。次に分類された円、だ円、卵、逆卵、角、菱の各類型の中の各1例と頸の分類中から選んだ5種類とを組み合わせ、30種類とし、トレーニングペーパーに転写して衿ぐり各種を組み合わせ、平面的な資料を用いて官能検査を行なった。

結果 顔面の類型化では、標準偏差によるものと官能検査による分類法との間には危険率1%で有意差が認められた。しかし検査者間に、また検査者個々においてもある程度のばらつきが認められたので、顔面の分類法は前者の方が適当ではないかと考へた。また顔と頸の長径と幅径の各比両者間には相関関係は認められなかった。なお顔と頸との組み合わせ30種類について、衿ぐり各種との適合に関する官能検査を行なった結果、研究を次の段階へと発展させるための基礎資料を得ることができた。